

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください

1. 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー 【岐阜・多治見】

(<https://www.mosaic-tile-museum.jp/exhibition/collection202606/>)

6月2日(火)～12月27日(日)

特別展 ザ 美術タイル 第Ⅰ部 ～煌めきのむこうがわ～

「美術タイル」と命名された、個性的なタイル群の展開を起点として、第Ⅰ部・第Ⅱ部の二部構成で実施する企画展です。第Ⅰ部では、時代をひとつの切り口としながらも、新発見資料を交え現代タイルまでの多様な表現を展観します。第Ⅱ部は、造形表現に取り組んでいる現役大学生による、第Ⅰ部の展示を昇華させた「ネオ美術タイル」をダイナミックに展示します。

※第Ⅱ部(2027年1月9日～)の詳細は随時お知らせします。



2. 横山美術館 (<https://www.yokoyama-art-museum.or.jp/event/>)

6月5日(金)～9月27日(日)

企画展 NORMAN ROCKWELL 続・ノーマン・ロックウェル展

ノーマン・ロックウェル(1894～1978)は、アメリカで活躍したイラストレーターです。1916年から47年間にわたり、当時アメリカで最も売れた雑誌『サタデー・イブニング・ポスト』の表紙を手掛けたことで知られ、ロックウェルの描いたアメリカの家庭生活や郷愁を誘うイラストは、アメリカ人の心を捉えて離しませんでした。このロックウェルの公式フィギュアが、瀬戸でつくられていたことをご存知でしょうか。瀬戸で制作された陶磁器製の装飾品や人形等のことを「セト・ノベルティ」と呼びますが、1970年代以降、ロックウェルのイラストを題材にしたセト・ノベルティを複数のメーカーがつくり、アメリカへ輸出しました。イラストを平面から立体へ — 全方向から見られるよう、描かれていない部分を補いながら造形する技術は、瀬戸で培われた職人技でした。今回、待望の続・ノーマン・ロックウェル展！ アメリカの発展を象徴するノーマン・ロックウェルの世界を、立体でお楽しみください。*都合により、展示品は変更になることがあります。



3. 茨城県陶芸美術館 【茨木・笠間】

(<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/viewer/info.html?Preview=true&id=584-0&idSubTop=0>)

7月11日(土)～9月23日(水・祝日)

企画展 「ガレの陶芸Ⅱ 奇想と幻想の造形世界」

19世紀後半のフランスを拠点に活躍したエミール・ガレ(1846～1904)は、ガラス、陶芸、木工家具を製造・販売するガレ商会を率いて、自社の作品を万国博覧会等で発表し、世界的に高い評価を受けました。実業家でもあり芸術家でもあるガレは、アール・ヌーヴォーを牽引した代表的な人物です。本展はガレの業績の中でも陶芸作品に焦点をあて、その展開と魅力を紹介する展覧会です。茨城県陶芸美術館では2020年に「ガレの陶芸展」を開催しました。今回は、前回とは異なる約120点の作品を紹介する第二弾です。ガレ商会のロングセラーだった猫型の置物や、日本美術の影響のある作品など、貴重な作品の数々を紹介します。

